

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1(小・中)

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	嬉野市立嬉野小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もコロナ禍にあり、例年通りの活動ができなかったが、オンラインによる集会や曜日や時間を分けて活動時間を設定するなど、できる工夫を重ね学びを止めない教育活動ができた。 挨拶は、少しずつ良くなっているが、継続して指導を行ってきたい。 働き方改革については、教職員の意識改革と合わせて、会議回数や時間、参加者の在り方も含めて改革を進めていく必要がある。
---------------	---

2 学校教育目標	「やる気」「笑顔」「元気」 未来をつくる嬉野っ子の育成
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①確かな学力の育成、校内研究の推進 ②人権・同和教育、学級経営、特別支援教育、教育相談の充実 ③健康・体づくり、特別活動の充実 ④生徒指導の充実、安全教育の推進 ⑤保護者・地域コミュニティとの連携推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・マイプランの成果指標をおおむねまたは十分達成できたと自己申告する職員は92% ・校内研修で、学年間等で内容や方策を交流することができた。	A	・マイプランの成果指標をおおむねまたは十分達成できたと自己申告する職員が、前回より2.3%増えた。 ・マイプランにおける学年指標を振り返り、成果と課題を話し合うことができた。	A	・より上の評価がないのが申し訳ないほどです。先生方の日頃の苦勞、ご努力の賜物の御褒め状の結果に出ています。先生方の指導力が高くても高いことを示しています。本当にありがたいことです。 ・週末作業の継続等、努力が受け入れられる。	やる気プロジェクト	
	○学習習慣の育成と定着	○家庭学習の目標時間(10分×学年+10分)を達成した児童80%以上	・目標時間を達成できるくらいの課題を設定したり、自主学習の取組例などを紹介したりする。 ・家庭学習のノートやプリント、または連携カードなどの振り返りに、取り組んだ時間を記録させることで目標時間を意識させる。	A	・今回の学校評価アンケートでも、各学年の目標学習時間を達成できていると回答した児童は81.9% ・職員も、目標時間を意識した宿題の工夫ができており、99%との回答が得られた。しかし、保護者からの評価は低かったため、学年の実態や状況に対応した宿題の出し方の更なる工夫を考えていきたい。	B	・昨年度の調査で、1日に1分も勉強しない児童が2割いたとのことでしたが、年間162日もある休みの日の学習がいかほど大切であるかを日頃より保護者の方にも伝えていただきたいと思います。 ・願って指導をお願いします。 ・職員の間でも非常に大切であり、また有効である。保護者による声掛けもはっきりできるとよい良い。 ・80%以上の結果に満足しています。 ・子どもたちへの定着が図れていて、達成に向けての努力をさせてい個人で目標を立てていよいかもありません。タブレットのドリルもぜひ活用してください。	B	・悪態に合わせた取組を評価する。 ・願って指導をお願いします。 ・進捗の調査ありがとうございます。	やる気プロジェクト	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権の学習で学んだことや考えたことを日常生活に生かそうとする児童80%以上	・人権集会や平和集会を行い、児童の人権意識を高める。	A	・平和学習に取り組んだ。 ・9月末のアンケート調査で道徳や人権の学習で学んだことを生かし行動しようとする回答した児童は86%	A	・人権学習に取り組んだ。 ・発達段階に合わせた授業の資料を利用し、各学級で人権学習と平和学習に取り組んだ。 ・1月のアンケート調査で道徳や人権の学習で学んだことを生かし、相手の気持ちを考えて行動しようとする回答した児童は89.6%だった。	A	・悪態に合わせた取組を評価する。 ・願って指導をお願いします。 ・進捗の調査ありがとうございます。	笑顔プロジェクト	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの未然防止と早期発見の対応が向上したと感じる職員を90%以上	・「先生あのねカード」やQUアンケート等を実施し、いじめの早期発見に努める。 ・心のアンケートを実施し、その結果をもとに教育相談を設定して対応を図る。	A	・先生あのねカードやQUアンケート等を実施し、いじめの早期発見に取り組んだ。 ・先生の話をしっかりと聞いてくれると回答した児童は、95.3%だった。	A	・いじめの早期発見、しっかりと話を聞いてくれるという子どもたちの感想に安堵した。 ・いじめの早期発見で、先生方が何らかの対応をされていると感じます。 ・いじめ認知について、再度先生方で共通理解をお願いします。	A	・先生あのねカードや早期発見、しっかりと話を聞いてくれるという子どもたちの感想に安堵した。 ・いじめの早期発見で、先生方が何らかの対応をされていると感じます。 ・いじめ認知について、再度先生方で共通理解をお願いします。	笑顔プロジェクト	
	◎ふるさと「嬉野」を愛する心の育成、目標をもち意欲的に取り組もうとする教育活動	○ふるさと「嬉野」や将来に肯定的な回答をした児童80%以上	・地域人材や地域教材を活用した教育活動を実施する。 ・キャリアパスポートを作成し、活用する。	・各体験活動は、新型コロナウイルス感染症を防止しながら計画的に実施している。 ・キャリアパスポートは、作成配付できた。	A	・夢や目標をもっていると回答した児童が87.7% ・コロナ禍で体験活動が制限された中でも、計画に沿うように、実施することができた。	A	・行事によって故郷を大事にする体験がよくできていた。 ・素晴らしい結果をありがとうございます。もともと嬉野に興味を持ってもらい、将来嬉野を盛り上げたい。 ・コロナ禍の中で制限されているものの、町探検など実施されよかつたと思う。今後は嬉野の歴史に関することも取り入れていただければと思います。	A	・行事によって故郷を大事にする体験がよくできていた。 ・素晴らしい結果をありがとうございます。もともと嬉野に興味を持ってもらい、将来嬉野を盛り上げたい。 ・コロナ禍の中で制限されているものの、町探検など実施されよかつたと思う。今後は嬉野の歴史に関することも取り入れていただければと思います。	笑顔プロジェクト
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上	・休みに各学級で週に1回以上外で遊ぶ日を設定し、可視化する。 ・いすみ期会等で外遊びを啓発する。 ・フリスビーやミニバレーボールを全学級に配付する。 ・栄養教諭による授業実践を全学級で行う。	B	・休みに外で遊ぶ日を設定している学級は、100% ・夏場は、暑さ指数(WBGT)が高く、外遊びを推奨することが難しかった。 ・ソフトバレーボールを全学級に配布した。よく使っている様子が見られる。 ・栄養教諭による食育授業は、計画的に実践できている。食の大切さを知らせることで、好き嫌いをなくするという意識が高まりつつある。	B	・週に1回以上の外遊びの日のを、すべての学級学級が設定し実施することができている。ただ、とても暑い日や体調不良などの理由で参加できない児童が多かったため、集計結果ではあまり変化が見られなかった。 ・マラソンタイムで頑張った児童を紹介するなど、教師の働きかけによって、運動しようとする児童が増えた。 ・栄養教諭による計画的な授業実践を行ったことで、94.9%の児童が「健康のために食事は大切だ」と回答できた。	B	・外で遊ぶことの楽しさをもっと感じられたいですね。 ・家庭で日常的に運動するのは難しい面もあるので、学校の運動場で遊ぶ日を設定してもらっているのもとてもいいことだと思う。コロナが落ち着いていけば、家庭での外遊びや運動の機会も増えると思う。 ・私の子どもも年齢が上がるにつれ、外で遊ぶようになってきた。家庭でも工夫していきたいが、学校でも外遊びのヒントを子どもたちに与えていただけたらありがたいです。 ・好き嫌いが多い年齢なので、今後も食育指導を続けていただければと思います。 ・1日1時間という設定は難しいと思える。 ・個人で目標を立てていよいかもありません。	B	元気プロジェクト
	○あいさつ・無言掃除・廊下歩行の充実	○「あいさつ・返事がよくできる」、「無言掃除ができる」、「教室移動は並んで、無言で移動できる」児童90%以上	・あいさつ運動等を行い児童の意識を高める。 ・無言掃除を徹底するために臨場指導を行う。 ・学校のまきりに沿って2列に並んで無言で特別教室等に移動するように指導する。	・あいさつについては、第1回目の結果より上昇したものの82.6%にとどまり、目標とする数値に7.4%届かなかった。また、無言掃除や教室移動についても、あいさつ同様、第1回目の結果より上昇したものの85.9%にとどまり、目標とする数値に4.5%届かなかった。学校生活全般において他者意識を高め、よりよい集団生活に向けた改善を図っていきたい。	B	・10月から1月までの教諭・講師の時間外勤務時間の平均は36.2時間で、9月までの平均より約1時間減少した。特に、1月の時間外勤務の平均は27.4時間で、昨年1月と比べて約4時間減少している。1月から、電話対応の時間を7:30～18:00としたことが要因の一つであると考える。	B	・業務時間外の電話の取次ぎをしないことは、今の時代に合っていると思います。 ・先生方も努力されているようです。難しい問題ですが、極力頑張ってください。 ・電話対応の時間変更のように、変えても特に問題ないものなど、これまで当たり前のように行っていたことも見方を改めて必要部分は削減して必要な部分に注力してもらえたいと思ふ。 ・先生の皆さんは、働きすぎだと思います。まずは、自分の心身をご自愛していただきたいです。 ・時間外の減少は、先生方の負担軽減となり、子どもたちへの教育の質の向上につながると思う。今後も継続していただければと思う。 ・時間外勤務が減っている。 ・先生方がストレスがたまらないといいですね。よろしく願います。	B	安全・安心プロジェクト	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在教等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とし、実施を徹底するように職員へ呼びかける。 ・毎月の時間外勤務の時間数の概要を知らせて、削減を意識するようにする。	C	・定時退勤日を設定していたが、徹底することができていない。 ・9月までの教諭・講師の時間外勤務時間の平均は37.1時間で、昨年度の同時期と比べても約1時間多い。 ・19時までには全員退勤できるように、引き続き意識改革を行う。	B	・10月から1月までの教諭・講師の時間外勤務時間の平均は36.2時間で、9月までの平均より約1時間減少した。特に、1月の時間外勤務の平均は27.4時間で、昨年1月と比べて約4時間減少している。1月から、電話対応の時間を7:30～18:00としたことが要因の一つであると考える。	B	・業務時間外の電話の取次ぎをしないことは、今の時代に合っていると思います。 ・先生方も努力されているようです。難しい問題ですが、極力頑張ってください。 ・電話対応の時間変更のように、変えても特に問題ないものなど、これまで当たり前のように行っていたことも見方を改めて必要部分は削減して必要な部分に注力してもらえたいと思ふ。 ・先生の皆さんは、働きすぎだと思います。まずは、自分の心身をご自愛していただきたいです。 ・時間外の減少は、先生方の負担軽減となり、子どもたちへの教育の質の向上につながると思う。今後も継続していただければと思う。 ・時間外勤務が減っている。 ・先生方がストレスがたまらないといいですね。よろしく願います。	B	教頭
	○職場環境の整備と職員のけがの防止	○職場環境について肯定的な回答をした職員80%以上	・希望する職員とスクールカウンセラーとの面談の機会を設定する。 ・職場における密の回避、マスク着用、手指消毒の徹底を図る。	・希望する職員とスクールカウンセラーとの面談は1回実施した。 ・職員室は常時換気を行うとともに、マスク着用を徹底することで感染防止に努めた。	A	・スクールカウンセラーとの面談を希望した職員はいなかった。職員同士の話しやすさや雰囲気はできている。 ・冬場も職員室は常時換気し、ドアノブなど頻りに触る場所はスクールサポートスタッフが毎日消毒することで感染防止に努めた。	A	・家で先生方のメンタルヘルスのフォローを引き続きよろしく願います。 ・コロナ禍での子どもたちへの指導は大変だったと思います。更なる環境の改善でよい方に向かってほしいです。	A	教頭	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関するスキル向上を意欲して研修・実践をしている職員を85%以上	・特別支援教育に関する研修を年3回以上行う。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に全職員に情報を発信し、共有する。	B	・研修会は、5月、8月に実施。 ・特別支援Gのミーティング(週1)やケース会議を行い、必要な情報を発信している。 ・週1回職員連絡会で、気になる子の共通理解図っている。	A	・特別支援教育に関するスキルが向上したと回答した職員は、88.9%だった。 ・前日に引き続き、週1回職員連絡会で、気になる子の共通理解を図ったりして、特別支援Gのミーティング(週1)やケース会議を行ったりして、必要な情報を発信した。	A	・子どもたちが今日一日楽しかったと笑顔でいられる魅力のある学校生活が送れるよう願っています。 ・支援学級での雰囲気は非常によく、また交流学級との親和性も良好と感じます。今後もコーディネーターの方を中心とした運営を継続していただければと思います。	笑顔プロジェクト

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上や心の教育については、校内研修等により全職員で共通理解・共通実践ができており、目標を達成することができた。 挨拶は、少しずつ良くなっているが、継続して指導を行ってきたい。 働き方改革については、1月から電話対応の時間を7:30～18:00としたことで、職員の時間外勤務時間が減ってきた。引き続き、行事や会議を精選するなど働き方改革を推進する。